

たか はし けん いち
高橋賢一さん



プロフィール

長崎市出身 31歳（美津島在住）
 小・中学校を長崎市で過ごし、長崎日大高校、日大工学部に進学。大学卒業後帰郷し（株）西日本スポーツアカデミーに入社。長崎市内をはじめ、福岡、五島などで水泳の指導にあたる。湯多里ランドのスイミングクラブにはおととしの9月に着任し、主に選手育成（アスリートコース）を担当する。柔道、スキーなどもこなすスポーツマン。

水泳をはじめたきっかけは？

物心ついた時には自宅近くのスイミングスクールに通っていましたが（いや、通わされていきましたね）というのも、実は私の父は水球の元日本代表選手だったんです。私が生まれた頃はすでに現役を引退していましたがそんな父の影響を受け、水泳選手をめざす日々がはじまりました。

アスリートの遺伝子を大いに発揮されたのでは？

小学、中学と九州大会に出場しました。中学入学当時、私の通っていた橋中には水泳部がなく中体連出場のため、他の部活に所属して水泳競技に出たのを覚えています。結果は優勝。2年生の時、念願の水泳部ができました。しかしその一方で私はその夏に関節の病気が見つかり手術、選手としての水泳を諦めました。現在、橋中水泳部は全国大会に出場する程の強豪校になっています。創部した私たちにとって後輩たちの嬉しい活躍です。

水泳指導者になろうと決めたのは？

大学卒業が近くなった頃、父から水泳指導者の道を勧められました。高校、大学としばらく水泳と離れていた時期もありましたが、やはり水泳とつながっていたかったし、尊敬する父の言葉でしたから決心しました。父とは釣りに行っても飲みに行っても水泳の話ばかりしています。また、以前練習に関わったことのある元オリンピック選手の森隆弘さんは良き相談相手、アドバイスをもらうこともしばしばです。

技術はもちろんですが水泳は楽しい、大人になっても続けたいと思うような心のケアも大切にしていきたいですね。

対馬の子どもたちはどうですか？

とても素直で練習に一生懸命取り組みます。その成長は著しいです。昨年は2名が念願の九州大会に出場を果たしました。離島というハンデはありますが大会にあわせて他のスイミングクラブと練習試合の機会をつくったり、うちの子どもたちを他のコーチにみてもらったりし

てレベルアップを図っています。また対馬は、親の転勤で他のクラブからやってくる子どもも多いので地元の子どもにとってはいい刺激を受けることができます。自分の壁を取り払い目標は高く持つて欲しいと願います。対馬のレベルは着実に上がっていますから。休日に子どもたちと万関で釣りをするのもまた対馬ならではのですね。

食えることが大好きな高橋さん、対馬の飲食店はほとんど制覇したとか？

はい、仕事が終わって友達と食事に出かけるのが何よりの楽しみです。美味しいものを求めて。お正月は対馬のにごり酒と寒ブリに「旨さ最高！」を味わいましたよ。そして何より対馬の方は心が温かく、情が深いですね。

対馬は「これからもここで仕事をしていきたい」と、はじめて感じさせてくれた場所です。「対馬最高！」

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いたしたくこのコーナー。次回は美津島町にお住まいの黒岩明美さんです。